

- ・理論家を除く大部分は、機器開発に興味を持っているにもかかわらず、それに対する評価が現在妥当でなく、開発体制が整っていないと考えている。
- ・大部分の人が、工学系の専門家が必要であると考えている。
- ・半数近くの人（技術系では過半数）が、機器開発の分野を組織の最大単位の一つとして他の研究分野と対等の位置に独立させるべきだと考えている。

工学系研究者へのアンケート（本号）

- ・7割近くの人が、天文学のための技術・機器開発は、その先端性・高精度性から、工学として評価されると考えている。
- ・移行後の国立研においては、容易に工学の専門家と意見交換を行なえる体制が必要であるとの認識がある。
- ・天文学における技術・機器開発に参加する意志を示している人も相当数いる。

以上の結果をふまえて私達は次のことを要望します。

- ・機器開発体制の整備、すなわち機器開発に対する評価システム・教育体制の確立、人員・財源の十分な確保を早急に行なうこと。
- ・特に光学では機器開発のレベルとアクティビティーが低いので、JNLT が立ち上がるのに先立ち、機器開発体制を整えることによって、機器開発を活発にするための強力な原動力を発生させること。
- ・工学系の専門家にとっても、魅力があり容易に参加できる体制、すなわち機器開発分野の独立や工学の部門・講座（専任、併任、客員）の設置を含めた研究体制を整備すること。
- ・常に最先端であり続けるために、柔軟性を持った体制にすること。

◎5月号に掲載された天文学関係の研究者・技術者を対象としたアンケートの集計結果では、紙面の都合で記述式回答一覧（抜粋）を省略させていただきます。入手御希望の方は、光学天文連絡会シンポジウム——大型光学赤外線望遠鏡の建設に向けて——（1987年1月）集録 70~76 ページに掲載されているので、できるだけそちらから入手して下さいますようお願いいたします。それが不可能な場合には、天文月報掲載記事を見て記述式回答一覧（抜粋）を希望することを明記の上、〒113 文京区弥生 2-11-16 東大理学部天文学教室学生会まで御請求下さい。

◇ 6 月の天文暦 ◇

日 時	記 事
1 3	月 最遠
5 4	上 弦
6 14	芒 種 (太陽黄経 75°)
7 19	水 星 東方最大離角
9 14	土 星 衝
12 6	望
13 10	月 最近
16 19	天王星 衝
18 20	下 弦
21 2	水 星 留
22 7	夏 至 (太陽黄経 90°)
26 15	朔
28 13	月 最遠
29 6	海王星 衝

1987年3月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	1,	2	11	0,	0	21	—,	—
2	2,	6	12	0,	0	22	—,	—
3	2,	8	13	—,	—	23	—,	—
4	1,	3	14	—,	—	24	—,	—
5	2,	3	15	1,	2	25	1,	8
6	2,	18	16	1,	2	26	1,	2
7	1,	14	17	—,	—	27	1,	3
8	1,	19	18	2,	12	28	1,	4
9	1,	14	19	—,	—	29	—,	—
10	1,	3	20	0,	0	30	2,	8
(相対数月平均値: 11.0)						31	2,	11

◇ 6 月の日月惑星運行図 ◇

